

# 社会福祉通信

ここが私たちの  
居場所です!

発行・編集／社会福祉法人 広島市社会福祉協議会  
〒730-0052 広島市中区千田町一丁目 9-43 (広島市社会福祉センター内)  
TEL 082-243-0051 FAX 082-243-0032  
URL : <http://shakyo-hiroshima.jp/>  
E-Mail : [chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp](mailto:chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp)

一緒にほっとしませんか?



毎週月・水・金の午後1時から4時の時間帯、大手町にあるビルの一室で「ほっとサロン」が開催されています。ほっとサロンは、さまざまな理由で貧困に陥ってしまい、NPO法人反貧困ネットワーク広島の運営するシェルターを利用した方々が退所後「一人暮らしをする中で、一人ぼっちでどうなっているか心配」、「人と交流して情報交換できるように」という思いから、反貧困ネットワーク広島が立ち上げて運営しています。ここでは仲間とお茶菓子を囲み、情報交換や近況報告、スタッフと話をしたりして過ごしています。決して、何かしなければいけないということはありません。また、月に1回、月末には食事会を開催し、豚汁や炊き込みご飯、鍋などをみんなで囲んで食べています。他にもシェルター退所者への「絆ニュース」の送付も行っています。

各記事につけられた以下のマークは、その事業が本会「地域福祉推進第7次5か年計画」のどの基本目標に属するかを表しています。





ほっとサロンの食事会へおじゃましました。その日はみんなでテーブルを囲み、カレーライスを食べ大変盛り上がっていました。

サロンについて参加者は、「しゃべれなくても周りが話をするのを聞いて心が和む、ほっとする」、「楽しい、落ち着く、ほっとするサロン」と話されていました。

責任者の濱口さんは、サロンで大切にしていることとして「いつだれが来ても、居ることの出来る場所で、『ちょっと寄ってみた』を含めて、くつろげる場であればと思う」、「仕事をして、サロンに寄ってみんなの顔を見て、また仕事を頑張れるようになってほしい」と話されました。今後は、「みんながサロンを知っている訳ではないので、多くの人にサロンを知ってもらい、サロンを通じて本来の自分らしい生活を取り戻してほしい」と思いを語っていただきました。

平成25年10月に東区総合福祉センターで開催された、居場所づくりに関する実践発表会では、ほっとサロンが来場者投票で1位を獲得しました。(右写真)

当日参加されたサロン参加者は「参加してみたら色々な人がいて、自分はここ(ほっとサロン)しか知らなかったが、他団体の活動を知り、つながりを持つことができ良かった」、「1位を取ったが、本当は順位なんかつけなくても、みんな和気あいあいと楽しめればいい」と発表会を振り返られました。



## 団体を支援する市社協の取り組み

広島市社協では、社協の連絡調整機能を活かし、様々な団体とネットワーク作りを行っています。

たとえば、「ほっとサロン」のような“居場所づくり”の取り組みを広めるために、「居場所づくり連絡会」を応援しています。

この他、社会的孤立・生活困窮者支援団体連絡会、広島市視覚障害者グループ連絡会、市民福祉ネットワーク“ひろしま”、成年後見推進団体連絡会などとも連携をとっています。

区社協ではNPO団体とのネットワークづくりを進めています。

さまざまな取り組みにチャレンジする団体が相互につながることで、さらに活動の広がりがみられるようになっています。



## 「居場所づくり連絡会」への参画団体 拡大中!

### ● 「居場所づくり連絡会」とは・・・?

「人と人が出会い、つながりあって育ちあう場」「社会的有用感を実感する場」である「居場所づくり」に取り組む団体がゆるやかにつながりあう組織です。情報交換などを通して、居場所の内容の充実やこれからの居場所づくりについて企画、提案し、発信をしていきたいと考えています。

偶数月の第4水曜日に開催(場所はその都度決まります。市社協に要問合せ)

関心を持たれたら、ぜひ市社協にご連絡ください! 詳細をお伝えします。

### ● 現在の「居場所づくり連絡会」参画団体

- ★ NPO法人 さわやかあ広島      ★ NPO法人 よもぎのアトリエ      ★ NPO法人 あいあいねっと
- ★ NPO法人 小さな一歩・ネットワークひろしま      ★ 一般社団法人 青少年ワークサポートセンター広島
- ★ 勇気と希望で仲間をつくる会      ★ 食べて語ろう会
- ★ 地区社協の様々なサロン(東区・戸坂、西区・井口台、安佐北区・狩留家、安芸区・畑賀)・・・
- ★ NPO法人 青少年交流・自立・支援センターCROSS      ★ ひまわりin矢野      ★ 認知症のひとと家族の会

## 『安佐北区社協が区内のNPO法人交流会を開催しました』

平成26年2月21日に「安佐北区内NPO法人交流会」が安佐北区総合福祉センターで開催されました。この交流会は、お互いの活動を知り、情報を共有し、連携を図るため、安佐北区内の分野を超えた42のNPO法人に協力を促し、ひろしまNPOセンターと安佐北区社協が共催し、安佐北区地域おこし推進課の協力も得ながら開いた初めての試みでした。

また、安佐北区内の地区社協にも参加を促した結果、当日は11のNPO法人から18名、11の地区社協から12名の参加があり、安佐北区役所地域おこし推進課、市社協、区社協などとあわせ総勢41名の参加がありました。

まず、ひろしまNPOセンターから話題提供された後で、地区社協とNPO法人が、それぞれの立場で活動紹介をされ、その後はグループに分かれて意見交換をされました。

グループワークでは、これまでお互いに知らなかったNPO法人や地区社協の活動について、活発に情報交換され、またそこで直面している課題なども共有することができ、一致団結して声を上げていくという今後の連携の必要性を認識されました。今後も引き続き開催され、発展していくことを市社協としても応援していきたいと思えます。



### 「地区社協現況調査」 から見えた!

## 地域のチカラ

地区社協現況調査で「地区社協で一番力を入れて取り組んでいる一押し取り組みは？」への回答の一部を紹介します。

地域での行事の充実や地区社協組織の強化などを通して、まちの小さな困りごとに、きめ細やかに対応しておられる地域の姿が伝わってきます。



### 災害時を想定して・・・

地域内にある7つの福祉施設と災害時相互支援協定を締結。今後、訓練などを各施設で実施する予定です。

### 気軽な買い物を目指して・・・

高齢者が気軽に買い物に行けるよう、スーパーと協力して無料バスを定期的に走らせています。

### 児童との交流を通じた高齢者の生きがいづくり・・・

地区の自然を活かした児童への体験学習を通じて、高齢者と児童との交流を図っています。児童は自然や環境、農業の大切さを学び、高齢者は教えることの喜びや社会参加の充実感を得ています。

### まずはお隣から・・・

まずはお隣を気遣うことから、そして挨拶から始めようとの活動に力を入れています。具体的には、「お一人暮らし、お二人暮らし高齢者へのゴミだし支援活動」を実施しています。

## 地区社協会長・地域福祉推進委員合同研究協議会 開催報告

平成26年2月5日にホテルセンチュリー21広島で「活動の担い手」をテーマに開催し、広島市域の地区社協会長、地域福祉推進委員等、約250名が参加しました。ルーテル学院大学学長 市川一宏先生とともに、5つの事例から、地域活動への参加を通して担い手に気づき、育てる視点を学びました。

### 参加者アンケートより

まちの将来像を地域住民にわかりやすく示していくこと・・・まちづくりに大切なことと思う。

共通して言えることは、「信頼関係と一体感を育む」が大切だということ分かりました。“地域に愛着が持てることから地域との交流がはじまる”を徹底することが、担い手の発掘のポイントと認識しました。

活動の原点を学ぶ上で『0か100ではない。1～99通りの活動がある。できることからやれば良い。』この言葉には元気づけられました。今、私の取り組んでいる活動は小さなことかもしれないが、やれることからやっているのです。これからも地域の課題に気づいたら、やれることからやっていこうと思います。



左から、講師の市川先生、シンポジストの①毘沙門台区社協(安佐南区)、②落合東地区社協(安佐北区)・修道大学ボランティアグループEフロンティア、③草津・庚午南地区社協(西区)、④早稲田学区社協(東区)、⑤老人大学院OB会

## 「佐伯区災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーション」を開催しました！



平成26年1月20日、佐伯区地域福祉センターを会場に、災害ボランティアセンターを立ち上げ、運営するシミュレーションを行いました。このシミュレーションは、佐伯区災害ボランティアセンターのスタッフとなり得る方に運営場面の体験として、地域の方に災害ボランティアセンターの役割を知ってもらうことを目的としています。



これまで、災害ボランティアセンター開設・運営シミュレーションの訓練は単独で実施していましたが、今年は広島市が主催する広島市総合防災訓練の1会場に位置付けられ、同日14時に南海トラフ地震が発生したという想定のもと、東区で帰宅困難者の訓練が、安佐北区、佐伯区では避難所訓練などが実施されました。

当日は、市社協や区社協、広島市災害ボランティア活動連絡調整会議（大規模災害時に被災者の支援活動や災害ボランティアの調整を行う団体などで構成する組織。事務局は広島市市民活動推進課）のほか、佐伯区内の地区社協や地区民児協、公民館など地域の団体からも参加があり、参加者総数は111名になりました。

内容は、「佐伯区災害ボランティアセンターの役割」についての説明、総務班やボランティア受付班など実践場面を想定した「シミュレーション（模擬訓練）」、班ごとに体験を通じた感想や意見を出し合う「ふりかえり」の3部構成でした。

近年、全国各地で地震や台風、集中豪雨などの災害が発生していることもあり、参加者の防災意識も高く、「年配の者にはニーズやマッチングなどの横文字を使うと分かりにくい」、「各班の役割をもっと詳しく知りたかった」などの意見をいただきました。

このシミュレーションは、毎年市内8区で会場を持ち回っての開催を予定しており、参加者からいただいた意見を次年度のシミュレーションに活かしていきたいと思えます。

## 法人後見事業の受任がスタートして！

### かけはし・こうけん

かけはしの契約累積総数は700件を超え、実利用の方々は300件に近づいています。  
法人後見がスタートして2年4か月で受任件数は倍増！



福祉サービス利用援助事業「かけはし」は、平成11年度事業開始以来すでに14年を経過し、相談件数と契約件数ともに伸びており、権利擁護の視点から判断能力の不十分な人々の生活を支える事業として定着し、かけはし契約総数はここ数年増加を続け、累計では712件、平成26年2月末で実利用は295件となっています。

区社協に配置された総合相談員と連携し、日常的な相談から「かけはし」事業による支援までを一貫して迅速に対応できるように、全市域における総合的な相談支援体制を充実・強化し、事業推進に努めていった成果です。今後とも、事業の効率的運営と機能強化を図り、継続して事業を推進していきます。

そして、新たに「成年後見」事業（こうけん）が平成23年10月からスタートし、成年後見制度の受け皿として、判断能力が不十分な人たちが安心して地域で生活し続けるようにするため「かけはし」事業と成年後見事業とが途切れることなくつながるようにしています。

「こうけん」は前年度の受任3件（補助1、保佐1、後見1件）から今年度（平成26年2月末現在）新たに4件（後見4件）増加し、受任総数7件（内1名は終了）となっています。

### 福祉サービス利用援助事業「かけはし」実施状況

契約者数等の年次推移 (平成11年10月～平成26年2月)

